

● 制作

鉄路の抜け殻

—「痕跡」を利用した鉄道跡地の風景化—

葛西 眞之介

園芸学部 緑地環境学科 環境造園学プログラム (主指導教員：章 俊華)

KASAI Shinnosuke

1. 研究の背景と目的

北海道にはやむを得ず廃止となり、永遠に鉄道の来ることのない「抜け殻」が数多く存在する。それらは手つかずのまま放置され、人知れず自然へと還っていく。かつて鉄道という地域生活や産業を支え続けてきた巨大インフラとして「そこに在った」はずなのにその重みある存在が失われつつある。実際のところ、近年、北海道ではモータリゼーションの進行や沿線人口の減少による利用客の減少、新幹線の開業に伴う並行在来線の経営分離によって、廃止されてしまう区間が増加してきている。線路を残し、モニュメント的に保存する方法とサイクリングロードなどに機能を上書きし、案内板等によって記憶を継承する方法が鉄道としての記憶を伝える方法として大別される。しかし、今後増え続けると思われる鉄道跡地をこのような方法以外で保存を行っていくことはできないだろうか。そこで本提案では、鉄道跡地が自然に還っていくことを許容しながらも、そこに鉄道の記憶というメモリアルな要素を両立させ、これから増加していくと思われる鉄道跡地の新しい場づくりへの転換方法への切り口を見出す。

2. 対象地

対象地は函館本線の余市駅周辺廃線予定地である。ワインやウイスキー生産が有名な他、市街地郊外には果樹園が広がる。また、港町としての一面も持っている。この場所は、北海道新幹線が現在の新函館北斗駅から札幌駅までの延伸計画に伴い、ほぼ同じ区間を走行する並行在来線が廃止されてしまうことで発生する鉄道跡地である。新幹線の延伸工事の延長によって、廃止自体は2030年以降と予定されている。余市町は沿線では小樽駅に次いで利用者数、街の人口が2番目であるにも関わらず、新幹線のルートにはなく、町の重要なインフラが一つ失われてしまう岐路に立たされている。

3. 方法

自然回帰への許容と鉄道としてのメモリアルな要素を両立させるために、鉄道跡地に残る「痕跡」を利用する。鉄道は敷設の際、運行上の都合に合わせて、人工的な土地の改変を行う。その際にできる土地の微地形や線路の線形が生み出す独自の空間に着目する。それらを鉄道としての形を自然の侵食に抗い、鉄道としての記憶を喚起させるデザイン要素として再解釈し、設計の中に取り入れる。

4. 調査

「痕跡」の類型化

①地形の「痕跡」

鉄道は急な勾配変化には対応できないため、盛土や切取を行うことで、土地の影響を受けず、規定の勾配に調節している。これらを独自の地形を痕跡として読み解く。

②線路線形とその空間の「痕跡」

鉄道は自動車のように細かい動きができない。それゆえに、鉄道独自の直線線形や緩やかな曲線を描く。それらが生み出す独自の空間を痕跡として読み解く。

③建築限界という空間の型の「痕跡」

実際の空間に現れるわけではないが、鉄道がとおるための空間は法律で定められており、それらを空間の型の痕跡として読み解く。

④鉄道があることで生まれた視点場の「痕跡」

跨線橋やホームといった構造物は鉄道が無ければ生まれないう独自の構造物であり、そこからの視点場は跡地となった際は形骸化すると思われる。よって、これらの独自の視点場も「痕跡」として読み解く。

対象地調査

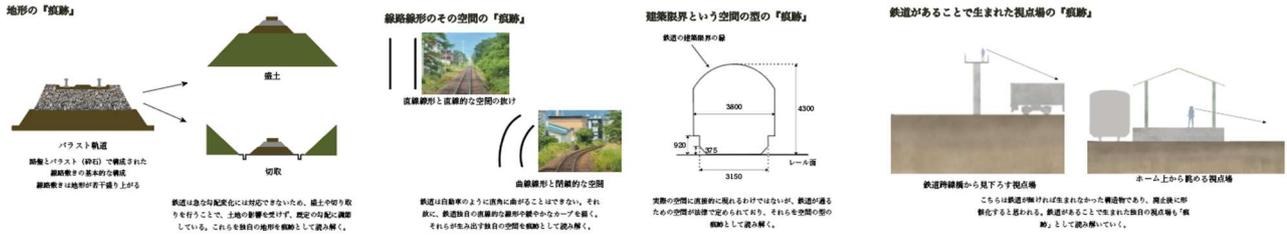
調査は先に国土地理院基盤地図情報により細かい地形の分析を行った。その後、現地調査を行い、実際の地形を目視で確認するとともに、実際の空間のスケール感、線路線形が生み出す空間や視点場の探索を行った。その上で、各所に見つかった痕跡をそれぞれのレイヤーごとに分けて調査結果をまとめた。調査の結果、対象敷地には北から順に地形の痕跡→線路線形の痕跡→視点場の痕跡の順で見つかった。

5. 提案の方向性

調査によって発見した痕跡群は場所によってそれぞれ特徴があることから、それらをゾーニングに落とし込む。そのゾーニングを基にしながら、対象敷地周辺のコンテクストを読み解くことで、その空間にある痕跡をいかしつつ、場所ごとに多様な緑地空間を生み出すように設計を行った。

参考文献

- 1) 昭和鉄道高等学校、「<図解>鉄道の教科書」
- 2) 余市町ホームページ



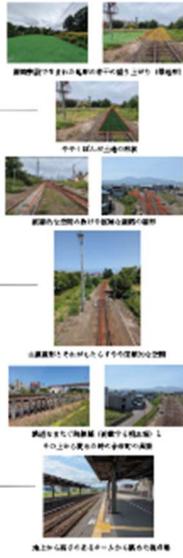
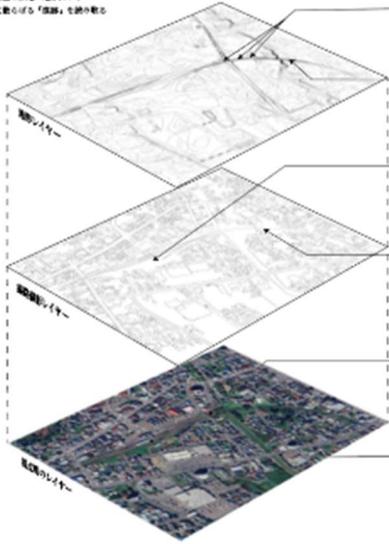
鉄道という巨大インフラをヒューマンスケールで体験するためのデザイン言語として再解釈

対象地分析とゾーニングへ落とし込み

対象地は既存の都市計画や土地利用規制、自然環境、交通網、社会インフラなどの要素を分析し、その特性を把握する。

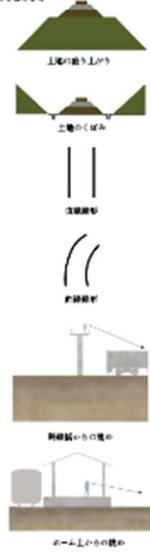
道路の抽出

道路ネットワークを抽出し、その形状や広さを分析する。



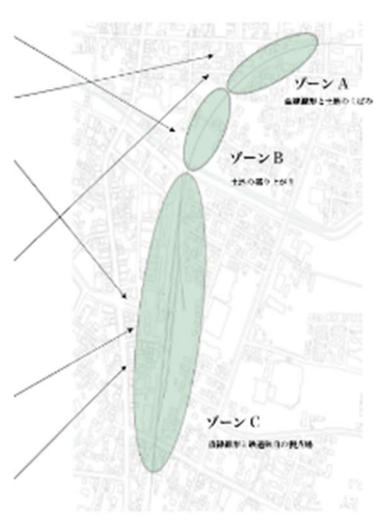
抽出した痕跡群

抽出した痕跡をもとに、落とし込む。



ゾーニングへの落とし込み

ゾーニング計画へ落とし込む。



平面図 (S=1:400)

スケール: 1:400

コンセプト: 鉄道としての都市空間を「痕跡」を用いた多様な緑地空間とする。

ゾーニング: 都市空間を「痕跡」を用いた多様な緑地空間とする。

一帯の緑地計画: 都市空間を「痕跡」を用いた多様な緑地空間とする。

